

諦めかけていた自衛官へ再挑戦。海上自衛隊入隊が決定



防大売店にて広報官と話しが弾む鈴木さん

神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 近藤一空尉）は、12月20日（水）、自衛官候補生試験に合格し、海上自衛隊に入隊予定の鈴木 嶺太さんの訪問を受けた。

鈴木さんは警備会社に勤める会社員で、防大生になった友人に会いに昨年11月「防衛大学校開校記念祭」に来ていた。

松村広報官は、鈴木さんに声をかけ、防大に来たのは初めてであることを知ると、資料館や学生舎、売店など校内を案内。儀仗隊のドリル演奏も見学した。

自衛官候補生試験の説明をきいた鈴木さんは「高校卒業時に自衛隊を受験したが、叶わなかった。警備会社で勤務をしているものの、何か物足りなさを感じています」と話し、その場で志願票に記入し広報官に手渡した。

12月に実施された試験に臨み、合格。海上自衛官として入隊することが決まった。

市ヶ尾募集案内所を訪れた鈴木さんは「あの時、広報官の方に背中を押してもらって受験することができ、心の片隅に忘れられずにあった自衛官になる夢を叶えることができました。これからの目標は、防大に行ったら友人と一緒に勤務すること。自分も幹部を目指して頑張っていきたい」と話した。

市ヶ尾募集案内所は「今後も自衛官を目指す若者の力になっていきたい。引き続き入隊までサポートするとともに、鈴木さんの夢を支援していきたい」としている。

山下相談員より航空自衛隊政府専用機パイロットを務めるご子息の近況報告



雑誌「航空情報」10月号表紙

神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 近藤一空尉）は、2月20日（火）、自衛隊市ヶ尾募集相談員会の山下 仁（やました ひとし）相談員より航空自衛隊であるご子息の近況報告を受けた。

山下相談員のご子息である山下3佐は、航空自衛隊特別航空輸送隊に所属し、政府専用機ボーイング747パイロットを務め、天皇・皇后陛下の外国訪問や安倍首相をはじめ政府要人らを国内外の目的地へ安全に輸送する任務を遂行している。

現在は、政府専用機の機体交換に伴い、ボーイング777の操縦訓練を続けており、忙しい毎日を過ごしているという。また、2017年10月号の雑誌「航空情報」の特集「密着！政府専用機B-747」では、インタビューを受け、写真が掲載されるなど、航空自衛隊の広報活動も担っている。

山下3佐は、一般幹部候補生飛行要員として航空自衛隊幹部候補生学校に入校し、卒業後、飛行教育の課程を経て、ウイングマークを手にした。

その時の心境を父である山下相談員は「パイロットの夢を叶えた息子姿を見て、素直に嬉しかった」と話し、航空祭には、妻と共に必ず足を運び、息子を見守ってきた。2017年10月の「航空自衛隊観閲式」にも、政府専用機で参加予定だったが、台風により中止になった。その際、山下相談員は「息子の晴れ姿を見られず、残念」と話し、寂しそうだった。

山下相談員は、航空自衛隊へ入隊が決まった入隊予定者との懇親会を企画し、保護者を交えて情報交換を行なうなど、家族会や相談員会の活動を積極的にこなしている。

市ヶ尾募集案内所は「ご子息の活躍する姿は、航空自衛隊を目指す若者に是非紹介したい。地元出身で活躍している自衛官がいることをPRし、多くの志願者獲得につなげていきたい」としている。



政府専用機機内に安倍首相と山下3佐



政府専用機パイロットを務める山下3佐

退職予定隊員就職連絡会議を開催
「労働局・ハローワークとの協力関係を強化」

関係者が一堂に会した会議の様子



自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 山野太資）は、3月9日（金）同地本において「平成29年度神奈川県自衛隊退職予定隊員就職連絡会議」を開催した。

本会議は、神奈川労働局及び県内ハローワークと自衛隊援護関係者との協力関係の強化を図ることを目的に同地本が主催したもの。

当日は、神奈川労働局と県内ハローワークから13名、自衛隊援護関係者から10名の参加を得て、ハローワークの職業紹介状況や退職自衛官の就職支援状況についての認識を共有した。

また、各ハローワークから中高年の求職者に対する職業相談事例などが紹介され、援護担当者のノウハウ蓄積のための貴重な機会となった。

神奈川地本は、「今後も神奈川労働局・ハローワークと自衛隊との協力関係強化のため、引き続き情報交換の場を設けていく」としている。